

環境にやさしい京野菜生産に活用できる畜産ペレット肥料を開発

府内で発生する鶏ふんに含まれる貴重な肥料成分の有効活用により、環境にやさしい農業の推進を図るため、京野菜（えびいも）の栽培に適した肥料効果を持ち、機械散布が可能な畜産ペレット肥料を開発しました。

背景

- ・国は「みどりの食料システム戦略」において、2050年までに、肥料の適正な利用や家畜の糞尿の利用により、化学肥料の使用量を30%削減することを目指している。
- ・養鶏場から大量に排出され、処分やその費用負担が問題となっている鶏ふんは、肥料成分が高いものの「肥料効果が不安定」「機械散布できない」などを耕種農家から指摘されている。

課題等

- ・養鶏農家の負担を軽減し、鶏ふんの利用増加につながる取組が必要。
- ・安定した肥料効果で、機械散布による省力化ができる鶏ふん肥料の開発が必要。

● 京野菜(えびいも)向け畜産ペレット肥料を開発

①鶏ふんペレット肥料を開発

鶏ふん＋油かす＋化学肥料 配合

水分量や肥料成分を調整し均一な粒状に成形



100t/月を
ペレット肥料にすると

処分費用の削減、利用率向上

処分費:900万円/年 削減

化学肥料の使用量削減

化学肥料:24t/年 削減（窒素成分）

②機械散布が可能

機械散布により労力軽減

手散布との比較

作業時間:5h/10a 短縮



研究成果

- ・鶏ふんと化学肥料等を混合した畜産ペレット肥料の京野菜への利用により、養鶏農家の負担が軽減されるとともに、化学肥料の使用量が削減されます。
- ・ペレット化により手散布から機械散布による大幅な作業労力の軽減が図られました。

今後の展開

- ・府内養鶏農家に対し、ペレット肥料製造機器の導入や製造体制の確立に向けた支援を行います。
- ・ペレット肥料を使ったえびいもの展示栽培を行い、耕種農家への導入を推進するとともに、他品目での活用も進めることで、持続可能な農業の定着を図ります。